

ミナミハンドウイルカの個体識別調査結果について (2016年)

2016年のイルカ調査は、主に父島周辺海域を対象に31回実施し、そのうちミナミハンドウイルカに遭遇したのは21回。提供して頂いた写真や動画データなども併せて個体識別を行った結果、今年の識別できた個体は83頭で、のべ識別個体数は265頭になりました。新規の識別個体はあまり特徴の無い若い個体が多く、引き続きデータを収集していきたいと思えます。

父島列島の地図には、ミナミハンドウイルカを発見した位置を赤点で示しています。島の東側に点が少ないですが、決して東側にイルカがいないという訳ではなく、調査の努力量が西側に偏っていたことを示しています。

2016年のイルカ調査で良く出会った個体とその回数は、#19と#229で8回、次いで#57、#273、#319で7回という結果になりました。#229に関しては昨年も2番目に多く確認できた個体として、2016年4月号のイルカ通信でも紹介しました。#19は出産経験のあるメス個体、#229はワカオス（既に離乳していて、繁殖に参加する前の若い個体）で、イルカ調査隊では引き続き観察を続けていきます。

2017年もイルカに関する情報を発信していきますので、ご期待ください。もし鯨類の生態のことでご質問がありましたら、いつでもOWAまでご連絡ください。

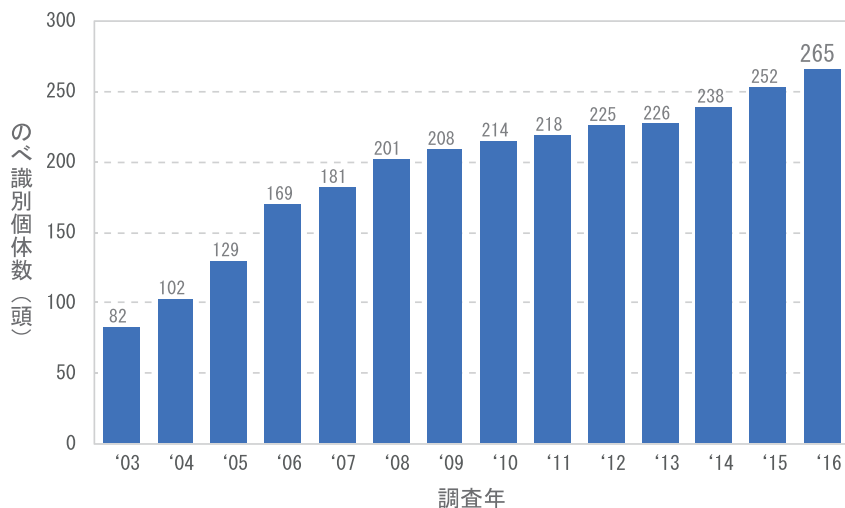


図1. イルカ調査での識別個体数の推移

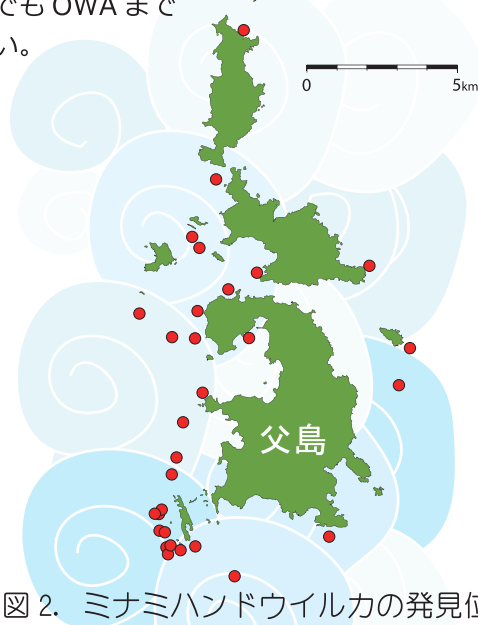


図2. ミナミハンドウイルカの発見位置

2016年もっとも



8回

出会えたイルカたち

#19 (♀)

ニックネーム：スポッティ



2003年から毎年父島周辺で見られ、2012年8月には初めて出産した個体。右胸ビレの白斑と背ビレの欠けが特徴。

#229 (♂)

ニックネーム：ひょうたん



2008年から確認されている個体で、背ビレの後縁と左胸ビレの欠けが識別のポイント。